

# 加西市の現状総括

## I. いきいき個性あふれる人づくり

### I-1 生涯学習の推進

#### 【課題】

生涯学習を支えていく市民活動リーダーの養成が求められています。リーダーの掘り起こしなど、行政としてできる支援を充実させていく必要があります。

生涯学習に参加する市民のニーズが多様化し、そのニーズを市の確に把握できていないことも課題です。生涯学習の取り扱う領域は本来広いものですが、部署間で重複するような講座やメニューの固定化が見られ、多様な学習機会の提供が求められています。IT、国際化に対応した学習支援も必要です。

館外活動においては地元の公会堂の活用や地域コミュニティとの連携はまだ十分に活かされていません。公民館、各種団体との協力体制を深め、社会参加活動、情報交換の活発化が図れる地域づくりに向けて取り組むことが望まれます。

人権問題は、社会の国際化、情報化、そして少子高齢化によって高齢者、女性、子ども、外国人などの様々な問題への対処が求められています。

#### 【チャンス】

退職後で時間にゆとりのある高齢者の増加は様々な生涯学習参加の増加の機会となっています。図書館は市民の教養文化発信基地として、まちの賑わいづくりの一翼を担っています。

市の歴史・文化の情報発信は、市史や歴史講座を通して提供されています。

地域には祭りや各種団体の活動、昔ながらの近所づきあいなど、何らかの形で関わる機会が備わっています。

中央公民館の裁判員制度の講座に見られるように時代に即した市民の関心度の高く、新しいニーズにあった講座が実施されたことが評価されています。

### I-2 学校教育の充実

#### 【課題】

信頼される学校づくりを推進していくために、安全で安心な教育環境の整備と、子どもたちに質の高い教育を実施することが大きな課題です。児童・生徒・保護者へ情報提供を行い、意見の反映や理解の促進に努めることが今後も必要とされています。学校教育活動、教育委員会活動に関する情報発信、情報公開も求められています。

子どもの減少や家庭環境の変化にともない、子どもの自然体験、生活体験等の不足が見られます。子育てや教育に不安を感じる保護者も増えています。経済的に困窮している家庭、要保護、準要保護家庭の増加、家庭の教育力、地域の子育て力の向上なども課題です。

幼児教育においては公私・幼保・幼保小の連携を推進することが必要です。特別支援児が増えていく中、受け入れ体制を整備するための具体策が必要です。

教育施設の老朽化が進み、保育や教育環境の耐震化が急がれています。児童数、生徒数が年々減少し、学校施設の適正規模と適正配置が大きな議論となっています。学校の統廃合問題への市民の関心は高く、市の方向性を示す市民への説明が早期に求められています。

全中学校給食の実施は給食センターや単独調理場の各施設・設備の老朽化や建替えの対策と併せて検討すべき問題となっています。

### 【チャンス】

少子化により少人数指導によるきめ細かい教育や体験、交流が可能となっています。また、子どもの見守り活動を通じて、高齢者の活躍が期待されます。幼稚園・保育所では環境体験学習、自然学校など様々な感情体験を重ねることができる環境づくりを進めています。

学びのサポーター、スクールアシスタント等支援員の配置によって特別支援教育の充実を推し進めています。子どもたちの登下校の安全確保や緊急情報を一斉配信する防犯メール、各学校のホームページなど学校情報の発信を積極的に行っています。食育を通じた郷土愛の醸成と安全安心な学校給食に取り組んでいます。

## I - 3 青少年の健全育成

### 【課題】

青少年センターの活動の充実と活性化がより一層求められています。そのためには青少年センターの相談事業、活動を広く多くの市民に知らせることが必要です。

人材育成事業、人材育成基金の運用、活用などを検討していく必要があります。

ジュニアリーダー（4年生以上の小学生と中学生、ボランティアで参加している大学生、高校生など）が今後、如何に地域ボランティアとして活躍していくか、社会貢献できていくかが課題です。ジュニアリーダー活動の支援として、小学生には自分で考えて行動できる態度を養い、中学生にはグループのリーダーとしての養成、高・大学生には、ジュニアで培った経験を地域のボランティア活動に活かすよう指導していくことが必要です。

### 【チャンス】

ワッシュイスクールや見守り隊など、地域ボランティア活動による健全育成が行われています。野外教育活動指導やエコ活動啓発をきっかけとした青少年活動が行われています。情報技術を活用した、迅速な情報交換、情報共有が可能となっており、犯罪や不良行為の未然防止が必要となっています。

## I - 4 生涯スポーツの振興

### 【課題】

市の公共運動施設の利用者は年々減少傾向にあります。スポーツクラブ 21 については、市民への浸透が十分ではなく、各クラブの継続と地域スポーツのあり方について、関係団体とともに協議を進める必要があります。

歴史遺産をめぐるウォーキング、サイクリングなど様々なレクリエーションスポーツとの連携がこれからの課題です。

### 【チャンス】

社会体育団体が担い手となって大会運営に主体的に参画関与していくスタイルが進んでいます。市民の健康志向の高まりから運動やスポーツへの関心が広がっています。

市内には、登りやすい低い山が多くあり、整備すればハイキングコースとして活用できます。

## I - 5 芸術・文化の振興

### 【課題】

40 数年続く市文化祭などの行事は、事業内容とその運営に目新しさが少なく固定化しています。文化財保護や地域歴史遺産の継承に関する人材の高齢化が進行しています。歴史・文化の継承のため、退職者等の活力を活かすことが必要です。

歴史遺産に対する関心が低く、歴史・文化を感じさせるまちなみ保全や地域づくりの活動は十分活かされていません。

### 【チャンス】

歴史ガイドボランティアについては人気が高く、ガイド機会も増加しています。全国的にはまちづくり協議会や歴史文化遺産を核とした地域おこしが行なわれています。市内には古民家が多く残されており、田舎暮らし志向が高まっている中で、地域価値が見出されています。技術の進歩により様々な情報発信にはデータベース化が有効な手段となっています。

## I - 6 国際交流の推進

### 【課題】

国際交流については、関心層と無関心層の格差が大きくなっています。学校教育では、外国籍児童生徒への学習指導、保護者への対応を行っていますが、十分ではない状況です。また、中高生による訪問団派遣が現在休止状態になっています。インターネットを通じて世界中の情報が手に入れられ、世界中の人と交流できる環境となっていますが、正しい情報を取捨選択する能力が必要となっています。市からは、多文化共生・国際交流に関する有効な情

報提供がなされていないのが現状です。景気悪化にも関わらず、[在住外国人への相談窓口がない](#)ことも課題です。

### 【チャンス】

市人口の2%が在住外国人となっており、交流や共生を図る機会は多くなっています。市内団体やボランティア団体による市民レベルでの国際交流体制の整備を進めています。在住外国人が生活しやすい社会の構築を目指して、多文化共生社会基本指針の策定を検討中です。国際交流を図ることにより、国際感覚豊かな人材を育成することができます。ホームページや紙媒体等で、在住外国人のための多言語による生活情報配信サービスを検討しています。